

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

本学院の特徴である国内外の食資源問題の現場に出向くワンダーフォーゲル型学習に基づく博士論文研究を学生が実施するため、個々の学生との熟議や複数教員による共同指導体制に基づく少数精鋭教育体制とすることが望ましい。よって、入学定員は6名とする。

6名の内訳としては、日本人学生（社会人を除く）3～4名、外国人留学生1～2名、社会人学生1名である。

平成29年4月に開設した国際食資源学院修士課程入学者に対し行ったアンケート結果によると、博士後期課程への進学を希望する者が6名おり、入学辞退者を踏まえると修士課程から引き続き進学する4名程度（含む留学生）の入学が見込まれる。

外国人留学生については、本学院の専任教員の研究に関心を表明している外国人学生もあり、交流のある海外大学からの留学生やJICAのプログラムからの留学生が見込まれることから、新たに1～2名程度の入学を想定している。

社会人学生については、企業へのアンケート調査の結果や、JICAとのこれまでの意見交換等の実績から、1名程度の入学が見込まれる。

このような理由から、博士後期課程の入学定員として6名が適正であると判断した。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本学院は設置構想当初、5年一貫制博士課程とする構想であったため、修士課程設置前（平成26年度及び平成27年度）に実施したアンケートには、博士後期課程に係る内容も含まれている。博士後期課程の設置に当たって、当該アンケート結果を踏まえて設置構想を策定していることから、当該アンケート結果も客観的なデータとして取り扱う。

① 修士課程の入学定員充足状況

本学院修士課程の平成29年4月入学者のための入学選抜試験において、入学定員15名に対し、26名の応募があった。そのうち21名を合格者とし、最終的に入学者は17名となった。17名の内訳は、本学出身学生13名、他大学出身学生1名、外国人留学生3名である。

平成30年4月入学選抜試験においても、入学定員を上回る23名の応募があり、一般選抜（1次試験）及び外国人留学生特別選抜で15名を合格者としている。辞退者も考えられることから、一般選抜において2次試験を行うことが決定しており、平成30年度も入学定員を充足できることが想定される。

②で後述するが、修士課程の学生は、新たに設置する博士後期課程への進学を希望する可能性が高いため、修士課程の入学定員が充足するよう、引き続き適正な定員の管理に努めていく。

国際食資源学院（修士課程）入学実績（入学定員 15 名）

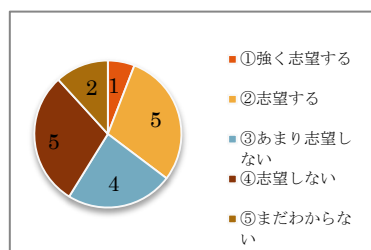
	志願者数				計	志願 倍率	合格者数				計	入学者数				計	超 過 率
	自 大 学	他 大 学	外 国 人 留 学 生	社 会 人			自 大 学	他 大 学	外 国 人 留 学 生	社 会 人		自 大 学	他 大 学	外 国 人 留 学 生	社 会 人		
H29	17	1	8	0	26	1.73	15	1	5	0	21	13	1	3	0	17	1.13
H30	14	6	3	0	23	1.53	9	4	2	0	15	-	-	-	-	-	-

※H30 年度実績については、1 次試験結果のみ記載しており、2 月に 2 次試験を実施する予定。

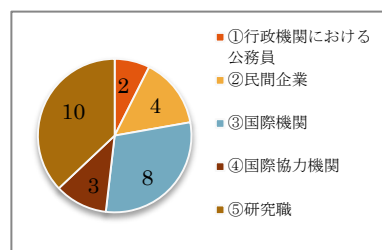
② 平成 29 年 7 月実施の学生アンケート調査（資料 1－1～2）

平成 29 年 4 月に国際食資源学院修士課程が開設され、平成 29 年 7 月に修士課程 1 年生に対し博士後期課程への進学に関する学生意向アンケートを実施した。

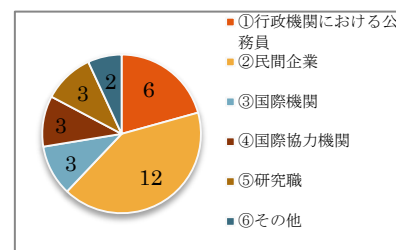
国際食資源学院 博士後期課程への
進学について



仮に博士後期課程へ進学した場合、あな
たの希望する将来の進路として、どれに
当てはまりますか？



仮に博士後期課程へは進学せず、修士課
程までで修了する場合、あなたの希望す
る進路として、どれに当てはまります
か？



※いずれも人数

本学院修士課程 1 年生に在籍する 17 名に対し、博士後期課程に進学を希望している学生は、強く志望する 1 名、志望する 5 名であった。これに加え、本学その他学院からの入学者、他大学大学院学生や JICA 支援社会人博士課程プログラム等による外国人留学生、社会人博士課程の入学者も見込まれている。他大学からの入学者については、修士課程において H29 年度に 1 名、H30 年度に 6 名（一次試験のみ）の志願があり、博士後期課程においても若干名の志願者のあることが期待できる。

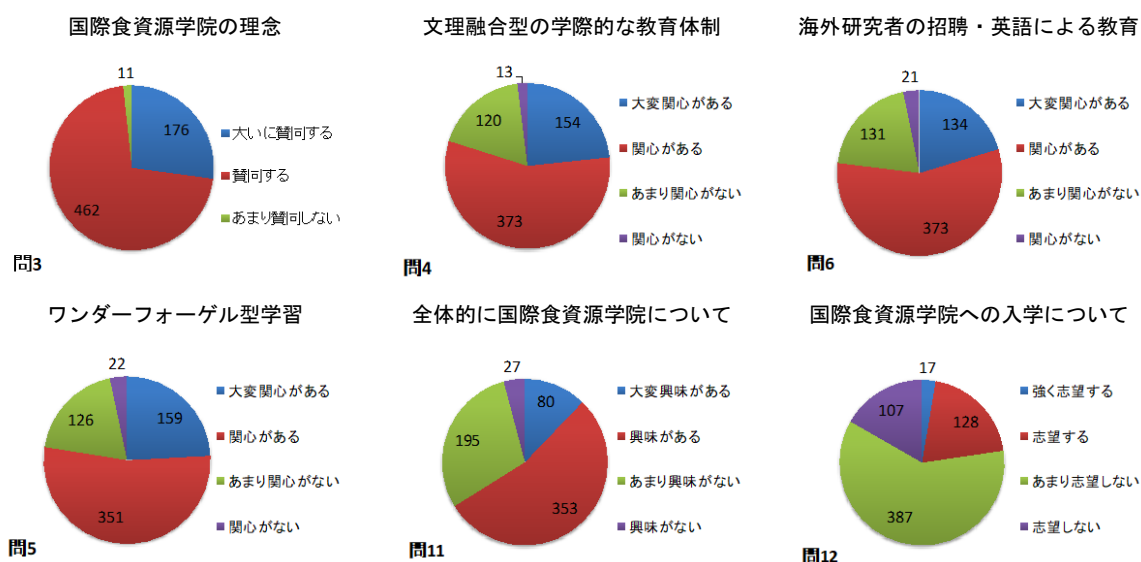
また JICA では、新留学生プログラムやイノベティブ・アジア事業、開発大学院連携プログラムといった複数の留学制度を実施しており、これらのスキームを使った留学生の受入が見込まれる。さらに社会人学生については、企業アンケートで 67%の企業が自社からの社会人入学について「可能性がある」と回答していることから、入学が見込まれる。これらのことを踏まえ、6 名の定員は妥当と考える。

③ 平成 27 年 4 月実施の学生アンケート調査（資料 2－1～2）

本学院に対する学生の期待や希望、入学の意向を把握するために、平成 27 年 4 月に在校生へのアンケート調査を実施した。回答者は 663 名（農学部 311 名、水産学部 241 名、教育学部・教育学院 59 名、工学部 49 名、法学部 2 名、経済学部 1 名）であった。

その結果、下表のとおり本学院の理念や教育システムについて、非常に多くの学生が賛同していることが明らかとなり、入学を希望する学生は全体の 20%を超える高い比率を示した。

本アンケートの結果は 5 年一貫制であることを前提とした内容となっているため、博士後期課程入学にも強い関心があることが窺える。なお、不備な回答を除外したため、設問ごとの総数は一致しない。



※いずれも人数

④ 平成 27 年 10 月実施の説明会及び学生アンケート実施（資料 3－1～3）

平成 27 年 10 月に、本学札幌キャンパス及び函館キャンパスにおいて、本学院修士課程の説明会を行った。説明会では、設置の背景、教育システムの特徴、カリキュラムの内容、キャリアパス、志望者に求めるものなどを説明し、終了後参加者にアンケートの回答を求め、37 名（学部 2～3 年次。理系 29 名、文系 8 名）の回答を得た。

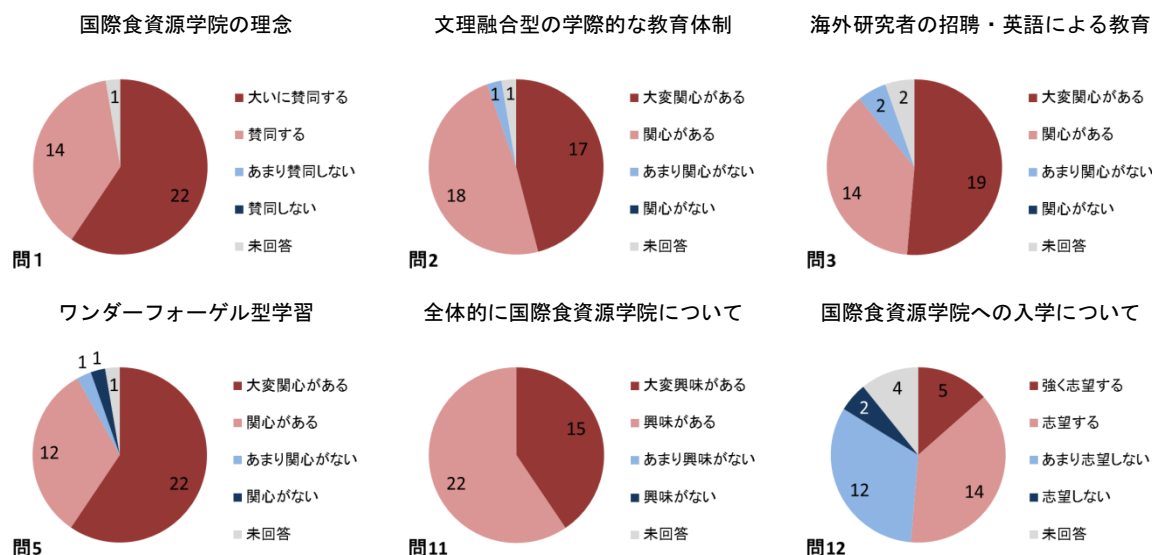
アンケートでは、教育システムの特徴である、文理融合型教育、ワンダーフォーゲル型学習、海外研究者の招致と英語による授業等について、関心の度合いや妥当性を尋ねた。また、将来の進路と就職後のキャリアパスとして本学院における教育が有効かを問い、全体として本学院への興味の有無と志望の有無を質した。

国際食資源学院の理念については未回答者を除く全員が賛同し、本学院に対する関心についても非常に高いものがあることが明らかになった。特に、文理融合型教育・ワンダーフォーゲル型学習などの本学院の特徴的な教育システムについては、どれも 9 割を超える学生が関心を持っていた。

アンケートの中で、「国際食資源学院への入学について」では、回答を得た 33 人中 19 人が「強

く志望する・志望する」と答えており、平成 29 年度修士課程入学者数は 17 名であったことから、この説明会の参加者は国際食資源学院に対する関心の高い学生層であり、アンケートの精度は高いものと考えられる。

本アンケート結果と②で述べた平成 29 年度修士課程入学者のアンケート結果を鑑みるに、本学院博士後期課程への期待度は高く、入学定員のうち、4 名の志願者が見込める数字といえる。



なお、③同様、本アンケート結果は 5 年一貫制であることを前提とした内容となっているが、「文理融合型教育」、「ワンダーフォーゲル実習」、「海外研究者の招聘による協力教育体制」、「英語による指導」といった教育上の特色は、いずれも 5 年一貫制博士課程構想から最終的な構想に引き継がれており、むしろ区分制博士課程としたことで学生のライフプランに応じた柔軟なカリキュラムとなったことから、区分制博士課程としての本学院への入学志望ニーズは、保たれていると考える。

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」により標準額が定められており、各国立大学法人が一定の範囲内でそれぞれ決定することとなっているが、本学は教育の機会均等や優秀な学生の確保等に配慮し、国が定める標準額をもって設定している。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学院がこれまで実施したいずれの取組も、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(平成 30 年度改訂版)」の PR 活動の記載に則って実施しており、今後実施する予定の PR 活動についても、同様に実施する。

博士後期課程に入学する可能性が最も高い本学院の修士課程入学者を広く募るため、本学院ホームページに修士課程の学生募集要項を掲載するとともに、本学院のパンフレット(資料 4)を作成し、平成 29 年 6 月に法学・教育・経済の文系 3 学部、医学部保健学科、水産学部、工学部、農学部

の各学部生に対し 5 日間に分けて平成 30 年度学生募集説明会を開催するとともに、食資源研究棟において説明見学会を行った。その際に、平成 31 年度に博士後期課程を設置する構想があることも説明した。

また、海外に在住している発展途上国の外国人に対し、JICA で実施している途上国の優秀な人材を本邦大学が開設する修士課程又は博士課程に在学させる新留学生プログラムやイノベティブ・アジア事業、開発大学院連携プログラム等を活用しての受験を勧め、外国人も受験しやすいプログラム等を積極的に活用し、学生を募集している。

今後は、本学がインドネシア・ボゴール農業大学やタイ・カセサート大学に置くリエゾン・オフィスを活用し、本学院の修士課程のみならず博士後期課程についても情報提供を進めていくとともに、これら大学で開催される大学交流デーでの紹介イベントなども活用する予定である。

また、次の大学等との交流を行う中で、本学院の設置に関する情報も随時提供する予定である。

- ・フィリピン大学ロスバニョス校（フィリピン）
- ・カントー大学（ベトナム）
- ・ペラデニア大学（スリランカ）
- ・インドネシア大学（インドネシア）
- ・パテイン大学（ミャンマー）
- ・オーフス大学（デンマーク）
- ・カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）
- ・ワーゲニンゲン大学（オランダ）

さらに、本学が実施する Hokkaido サマー・インスティテュートやラーニング・サテライトに参加する学生にも本学院をアピールする予定である。

2. 人材需要の動向等社会の要請

（1）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

今日、爆発的な人口増加や地球規模で増大する気候変動の影響を受け、食料の生産基盤でもある水資源や土地資源の安定的な確保が脅かされ、これら生存のための資源の不均衡や食料の分配システムのひずみにより経済格差が拡大し、開発途上国における貧困と飢餓、伝染病の蔓延にも繋がっている。また、先進諸国においても、食品汚染や有毒物質の使用による安全性の危機、流通システムや食料輸送・保存の劇的変化、食生活の乱れに伴う肥満や成人病の急増など、生命と生活に直結する問題が明らかになってきた。

一方、国内でも、過疎化に伴う農業の担い手の減少、食料自給率の低迷、貿易や政治問題に連動した食料生産及び食料安全保障の脆弱性、社会的に深刻さを増す食品安全性など多くの課題が山積している。

このように世界的な食料・食品、食にまつわる土地、水、環境、衛生、健康、政策、経済、教育、生産、流通、安心・安全等に関わる課題すなわち世界が直面する多様かつ重層的な「食資源問題」を理解し、具体的な解決策を提示・実践できる国際的リーダーが社会から求められている。

しかし、我が国において食の問題に関わる大学院教育では、研究者養成を主体とした人材育成や

細分化された個別問題の解決にとどまっており、世界を俯瞰的に見つつ、専門家としてリーダーシップを発揮できる国際的人材の養成は行われていない。

このため本学院博士後期課程では、地球規模で拡大する様々な食資源問題に対し、課題の解決策を多面的に提示できる総合力のあるスペシャリストとして、行動力・問題発見力・課題解決力・企画提案力・牽引力を身に付けた真の国際的リーダーとなる人材を養成する。

（２）（１）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

① 平成 27 年 12 月～平成 28 年 1 月実施の企業等アンケート調査（資料 5－1～2）

平成 27 年 12 月から平成 28 年 1 月にかけて農業系の企業・研究機関・行政等 64 機関に対して、修士課程修了者及び博士修了者を採用する際に重視する資質についてアンケートを行ったところ、45 機関から回答を得た。結果は、修士課程修了者・博士後期課程修了者いずれもチームやグループ、現場等での業務遂行、さらには異業種間との協働や企業のグローバル化に対応していくための資質として、コミュニケーション能力、行動力、リーダーシップを重視しており、修士課程修了者には、専門性を強くは求めてはならず、ジェネラリストとしての資質を重視しており、博士後期課程修了者においては、スペシャリストとしての専門性を重視している結果となった。

この社会的要請は、修士課程修了者には、課題解決のための方法論を体得し、行動力、融合力、組織力、基礎的な問題解決力を併せ持ったジェネラリストの養成、博士後期課程修了者には、行動力・問題発見力・課題解決力・企画提案力・牽引力・、情報分析力を体得し、課題の解決策を多面的に提示できる総合力のあるスペシャリストの養成という本学院が目指す養成する人材像に合致していることから、博士後期課程修了後の進路については十分期待できる。

② 参考：博士後期課程の設置を見据えた就職先の見込み（資料 6－1～2）

平成 26 年 11 月から平成 27 年 3 月にかけて、19 の国内企業及び研究機関に対し本学院についてのアンケートを行った。

公的研究機関では、博士課程の修了者を正職員として受入れる体制は整っており、今回調査した農林水産関連の研究所全てにおいて採用人数も多い。本学院のカリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーと合致する国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター（JIRCAS）や JICA では、博士課程修了者採用に好感触を得た。

一般企業では、公的研究機関ほど博士課程修了者の採用に積極的ではないが、採用する博士課程修了者に海外での研究・実習経験を期待するかとの問いに、19 社中 14 社から「期待する」との回答があり、本学院の特徴ある教育内容に期待が寄せられている。また、本学院の設立趣旨に賛同し、双方にとってメリットとなるような関係構築の下で、採用可能と答えた企業が数社あった。本学院が国際ネットワークを拡げることによって、企業もそのネットワークを利用する手段を探りたい意向である。

このように、本学院の教育内容は全体的に高く評価されており、最終的に博士後期課程まで修めた学生についても、就職先は充分に見込まれると判断される。

学生の確保の見通し等記載した書類 資料目次

資料 1－1	国際食資源学院博士後期課程に関する学生意向アンケート 集計結果 (H29. 7 実施)
資料 1－2	国際食資源学院博士後期課程に関する学生意向アンケート 様式 (H29. 7 実施)
資料 2－1	国際食資源学院に関する学生意向アンケート 集計結果 (H27. 4 実施)
資料 2－2	国際食資源学院に関する学生意向アンケート 様式 (H27. 4 実施)
資料 3－1	国際食資源学院に関する学生意向アンケート 集計結果 (H27. 10 実施)
資料 3－2	国際食資源学院に関する学生意向アンケート 集計グラフ (H27. 10 実施)
資料 3－3	国際食資源学院に関する学生意向アンケート 様式 (H27. 10 実施)
資料 4	北海道大学国際食資源学院パンフレット
資料 5－1	国際食資源学院に関する企業アンケート 集計結果 (H27. 12 実施)
資料 5－2	国際食資源学院に関する企業アンケート 様式 (H27. 12 実施)
資料 6－1	国際食資源学院に関する企業アンケート 集計結果 (H26 年度末実施)
資料 6－2	国際食資源学院に関する企業アンケート 様式 (H26 年度末実施)

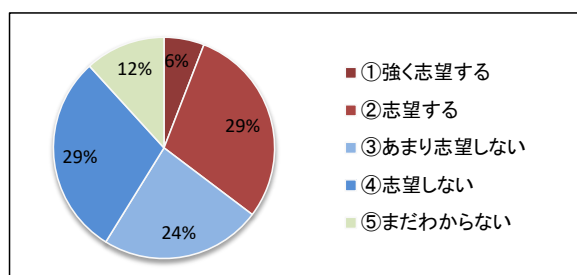
博士後期課程への進学に関する学生意向アンケート

回答者数：17名

2017/7/9実施

1. 国際食資源学院 博士後期課程への進学について

①強く志望する	1名	6%
②志望する	5名	29%
③あまり志望しない	4名	24%
④志望しない	5名	29%
⑤まだわからない	2名	12%

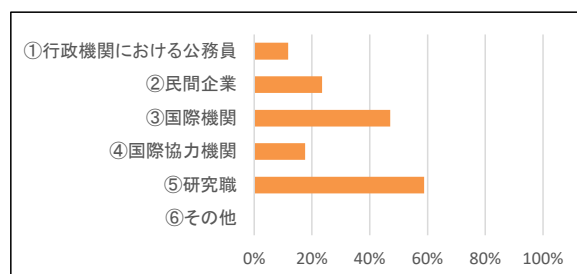


2. 仮に博士後期課程へ進学した場合、あなたの希望する将来の進路として、以下のどれが当てはまりますか？

①行政機関における公務員	2名	12%
②民間企業	4名	24%
③国際機関	8名	47%
④国際協力機関	3名	18%
⑤研究職	10名	59%
⑥その他	0名	0%

具体的に希望する進路・就職先があればお書き下さい

記入なし



3. 仮に博士後期課程へは進学せず、修士課程までで修了する場合、あなたの希望する進路として、以下のどれが当てはまりますか？

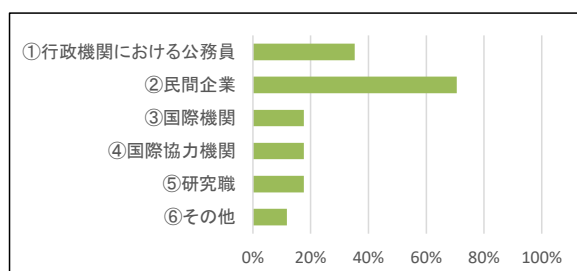
①行政機関における公務員	6名	35%
②民間企業	12名	71%
③国際機関	3名	18%
④国際協力機関	3名	18%
⑤研究職	3名	18%
⑥その他	2名	12%

無職

他大学院(博士進学希望者)

具体的に希望する進路・就職先があればお書き下さい

記入なし



お手数ですが、以下の質問に回答くださいますようお願いいたします。

北海道大学大学院国際食資源学院 総務委員会

国際食資源学院に関する学生意向アンケート 集計結果 (H27.4 実施)

回答数 663 人

(以下、丸めの誤差の関係で、比率の合計は 100%にならない場合がある)

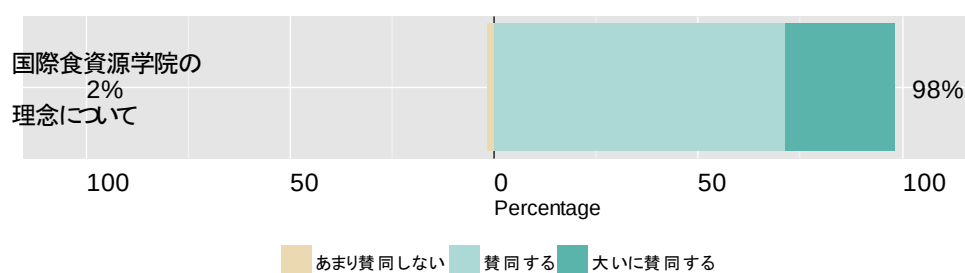
回答者の基本属性

性別	男性	女性	無回答	合計
人数	434	226	3	663
比率	65.5%	34.1%	0.5%	100%

学年	学部 1 年	学部 2 年	学部 3 年	学部 4 年	修士 1 年	修士 2 年
人数	3	348	295	13	0	4
比率	0.5%	52.5%	44.5%	2.0%	0%	0.6%

学部・学院	教育学部 教育学院	経済学部	工学部	水産学部	農学部	法学部
人数	59	1	49	241	311	2
比率	8.9%	0.2%	7.4%	36.3%	46.9%	0.3%

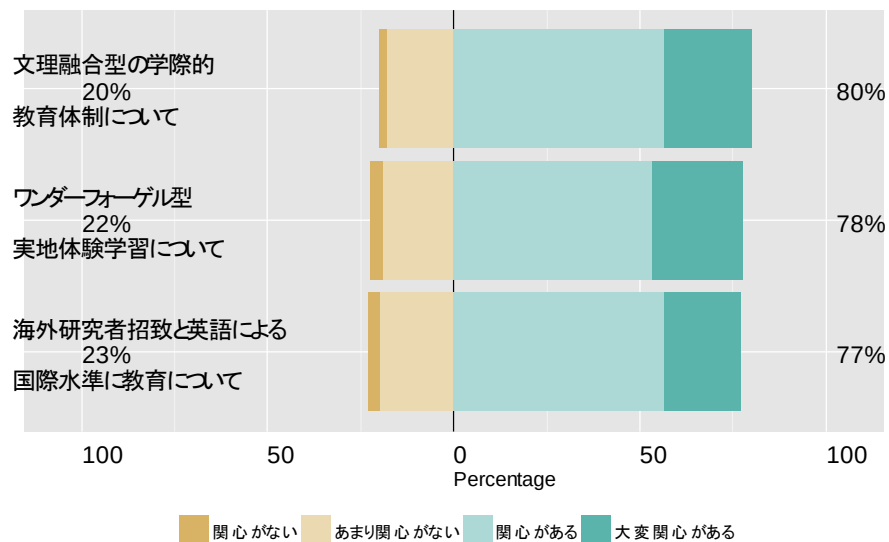
Q 3. 「食」に影響を与える世界の人口の爆発的増加、気候変動、経済的な不均衡に対して、その問題解決に携わる国際的なリーダーの育成を目的に設置する国際食資源学院の理念について



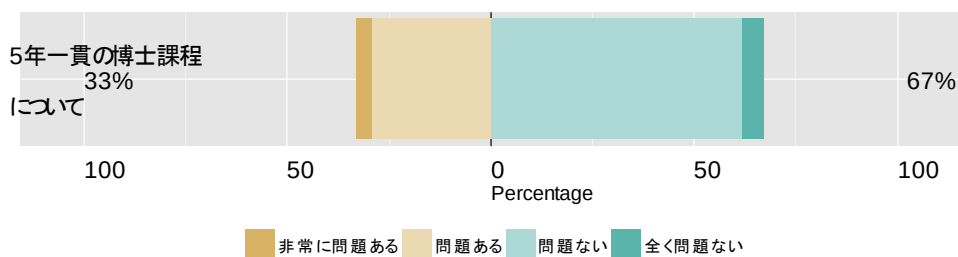
Q 4. 国際食資源学院は従来の文系と理系の枠を超えた 文理融合型の学際的な教育体制 でカリキュラム等を構成することについて

Q 5. 国際食資源学院で実施する国内外の研究機関等に長期滞在し学習する、ワンダーフォーゲル型実地体験学習 について

Q 6. 国際食資源学院では 海外の研究者を本学院の教員として招致し、英語による国際水準の教育 を行い、世界的なネットワークの中で人材育成を進めていくことについて



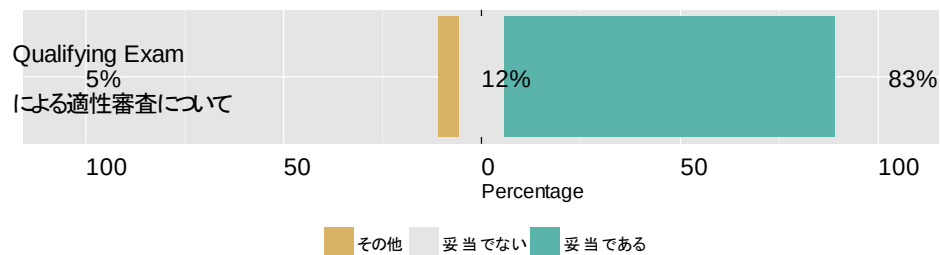
Q 7. 国際食資源学院は 5年一貫の博士課程 であることはあなたにとって



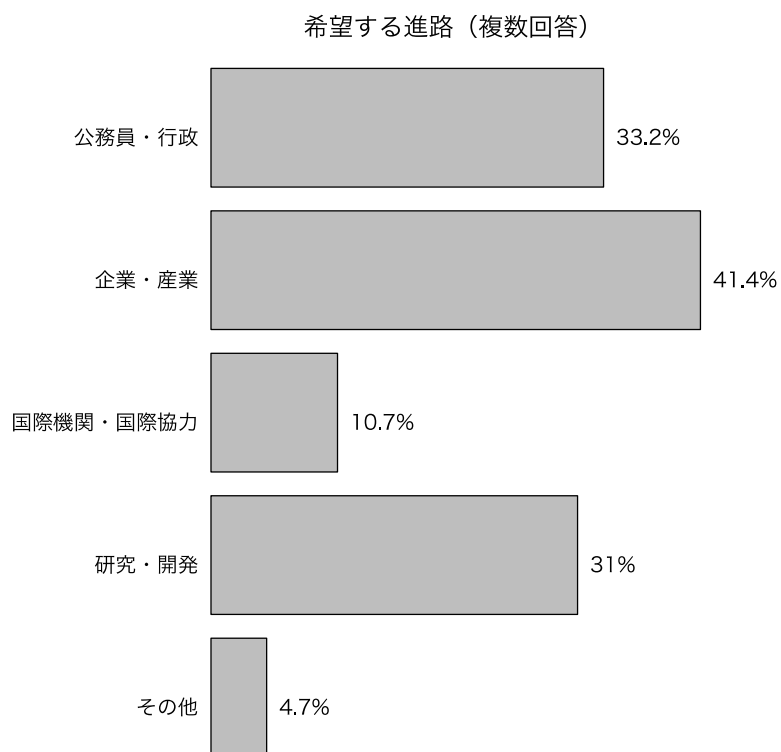
「問題がある」、「非常に問題がある」と回答した理由（抜粋）

- 5年は少し長い。2年なら進学してみたい。
- 教育内容のハードルが高い。
- 途中で進路変更ができない。
- 学費等の問題。
- 修士修了後に就職したい。

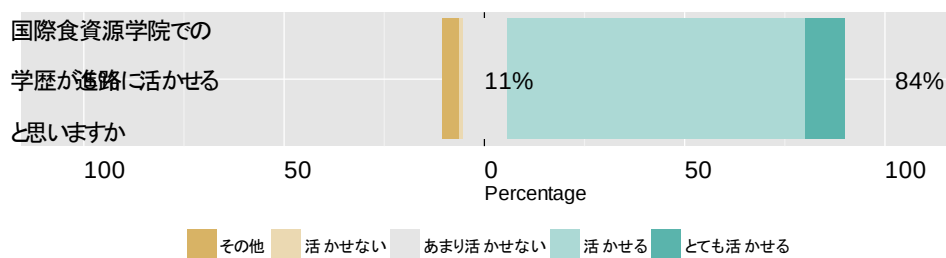
Q 8. 国際食資源学院の2年生後期に Qualifying Examination (QE)によって適性審査を実施し、その後の3年間の進級を決定する制度について



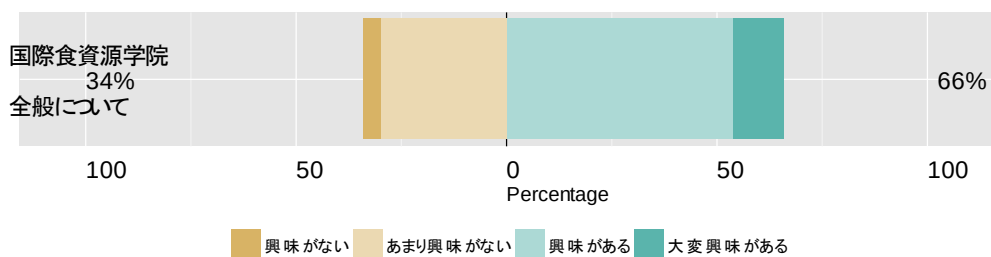
Q 9. あなたの希望する進路はどれに当てはまりますか？



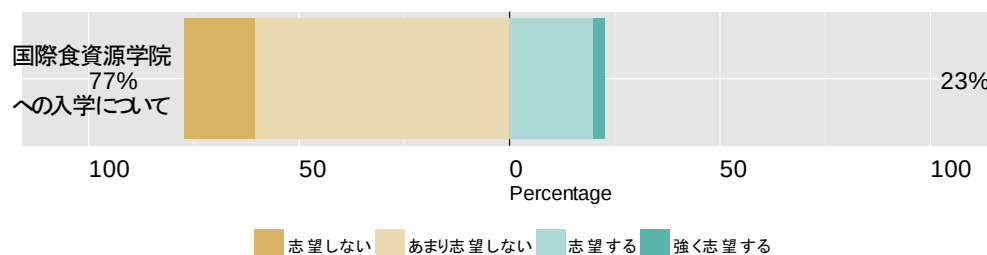
Q 10. 国際食資源学院は博士修了者のキャリアパスとして、アカデミックな研究者のみならず行政、企業、国際機関で活躍できる人材の育成を目指しています。国際食資源学院での博士の学歴が上記で答えた進路に活かせると思いますか？



Q 11. 全体的に国際食資源学院について



Q 12. 国際食資源学院への入学について



Q 13. 国際食資源学院への入学を「志望しない」、「あまり志望しない」理由（抜粋）

- 既にやることが決まっている。
- 英語に自信がない。
- 自分にはハードルが高すぎると感じる。
- 5年は長い。
- 経済面。

Q 14. その他の意見（抜粋）

- 費用はどの程度必要となるのか知りたい。
- 私は IRRI で働きたいと考えているのですが、国際食資源学院では水稻について他分野より重点的に学習していくことは可能なのでしょうか。もちろん、学際的な知識を得ながらのことです。要するに自分のしたいことができるかどうか知りたいです。
- 「資源」という部分に興味があるので、その内容をより詳しく知りたい。
- 説明会を何回かやって欲しい。
- 文理の授業の割合はいかほどか。具体的なカリキュラム。
- ワンダーフォーゲル型学習ではどのような機関との提携を考えているのか。
- 入学の応募はいつ頃から始まるのか。
- 入試制度について知りたい。

※ 本アンケートは、5年一貫制博士課程を構想していた際に実施したものであり、最終的な学院の内容とは異なる部分がある。

14. その他国際食資源学院について知りたいことなどがあれば記載してください。

アンケートにご協力下さり有難うございました。

北海道大学 担当者（ ）

※ 本アンケートは、5年一貫制博士課程を構想していた際に実施したものであり、最終的な学院の内容とは異なる部分がある。

国際食資源学院に関する学生意向アンケート 集計結果(H27.10 実施)
(回答者 37 人)

1. 「食」に影響を与える世界の人口の爆発的増加、気候変動、経済的な不均衡に対して、その問題解決に携わる国際的なリーダーの育成を目的に設置する国際食資源学院の理念について

①大いに賛同する	22人
②賛同する	14人
③あまり賛同しない	0人
④賛同しない	0人
未回答	1人

2. 国際食資源学院は従来の文系と理系の枠を超えた文理融合型の学際的な教育体制について

①大変関心がある	17人
②関心がある	18人
③あまり関心がない	1人
④関心がない	0人
未回答	1人

3. 国際食資源学院では海外の研究者を本学院の教員として招致し、英語による国際水準の教育を行い、世界的なネットワークの中で人材育成を進めていくことについて

①大変関心がある	19人
②関心がある	14人
③あまり関心がない	2人
④関心がない	0人
未回答	2人

4. 各人のメンターと個別に構築する「テラーメイドカリキュラム（研修先の選択を含む）」について

①大変関心がある	17人
②関心がある	15人
③あまり関心がない	3人
④関心がない	0人
未回答	2人

5. 国際食資源学院で実施する国内外の研究機関等に長期滞在し学習する、ワンダーフォーゲル型学習(Problem based learning)について

①大変関心がある	22人
②関心がある	12人
③あまり関心がない	1人
④関心がない	1人
未回答	1人

6. 履修者全員で実施する、事前・事後演習を含むスタートアップ実習（デンマークを予定）について

①大変関心がある	19人
②関心がある	13人
③あまり関心がない	3人
④関心がない	1人
未回答	1人

- 7-a. 国際食資源学院は5年一貫の博士課程であることはあなたにとって

①全く問題ない	3人
②問題ない	11人
③問題ある	21人
④非常に問題ある	1人
未回答	1人

7-b. 設問7-aで「問題ある」または「非常に問題ある」と回答した方にとって、どのような点が問題ですか
※省略

8. 国際食資源学院は5年一貫の博士課程であるため、2年次修了後に修士号が授与されることはありません
(単位取得退学となる)。このことについて

- | | |
|---------|-----|
| ①気になる | 28人 |
| ②気にならない | 7人 |
| 未回答 | 2人 |

9. あなたの希望する進路は以下のどれに当てはまりますか？(複数回答)

- | | |
|--------------|--------|
| ①行政機関における公務員 | 6人 |
| ②民間企業 | 10人 |
| ③国際機関 | 13人 |
| ④国際協力 | 7人 |
| ⑤研究職 | 13人 |
| ⑥その他 | 1人(未定) |
| 未回答 | 4人 |

10. 国際食資源学院は博士修了者のキャリアパスとして、アカデミックな研究者のみならず行政、企業、国際機関で活躍できる人材の育成を目指しています。国際食資源学院での博士の学歴がご自身の希望する進路に活かせると思いますか？

- | | |
|-----------|-------------|
| ①とても活かせる | 9人 |
| ②活かせる | 20人 |
| ③あまり活かさない | 5人 |
| ④活かさない | 0人 |
| ⑤その他 | 1人(まだわからない) |
| 未回答 | 2人 |

11. 全体的に国際食資源学院について

- | | |
|-----------|-----|
| ①大変興味がある | 15人 |
| ②興味がある | 22人 |
| ③あまり興味がない | 0人 |
| ④興味がない | 0人 |
| 未回答 | 0人 |

12. 国際食資源学院への入学について

- | | |
|-----------|-----|
| ①強く志望する | 5人 |
| ②志望する | 14人 |
| ③あまり志望しない | 12人 |
| ④志望しない | 2人 |
| 未回答 | 4人 |

13. 国際食資源学院に「興味はあるが入学は志望しない方」にお聞きします。入学を志望しない理由を教えてください

※省略

14. 進学先の候補として国際食資源学院を検討される場合、不安や心配なことはありますか(複数回答)

- | | |
|---------------------|-----|
| ①講義・実習が全て英語で実施されること | 12人 |
| ②専門外の授業を履修すること | 8人 |
| ③授業料の負担 | 19人 |
| ④5年一貫であること | 23人 |
| ⑤実習や海外長期滞在の費用 | 25人 |
| ⑥実習先での安全確保 | 5人 |
| ⑦修了後のキャリアパス | 14人 |
| ⑧その他 | 3人 |
| 未回答 | 0人 |

あなた自身についてお聞きします。

1. あなたが現在学んでいる専門分野、または今後学ぼうとする専門分野は何ですか？

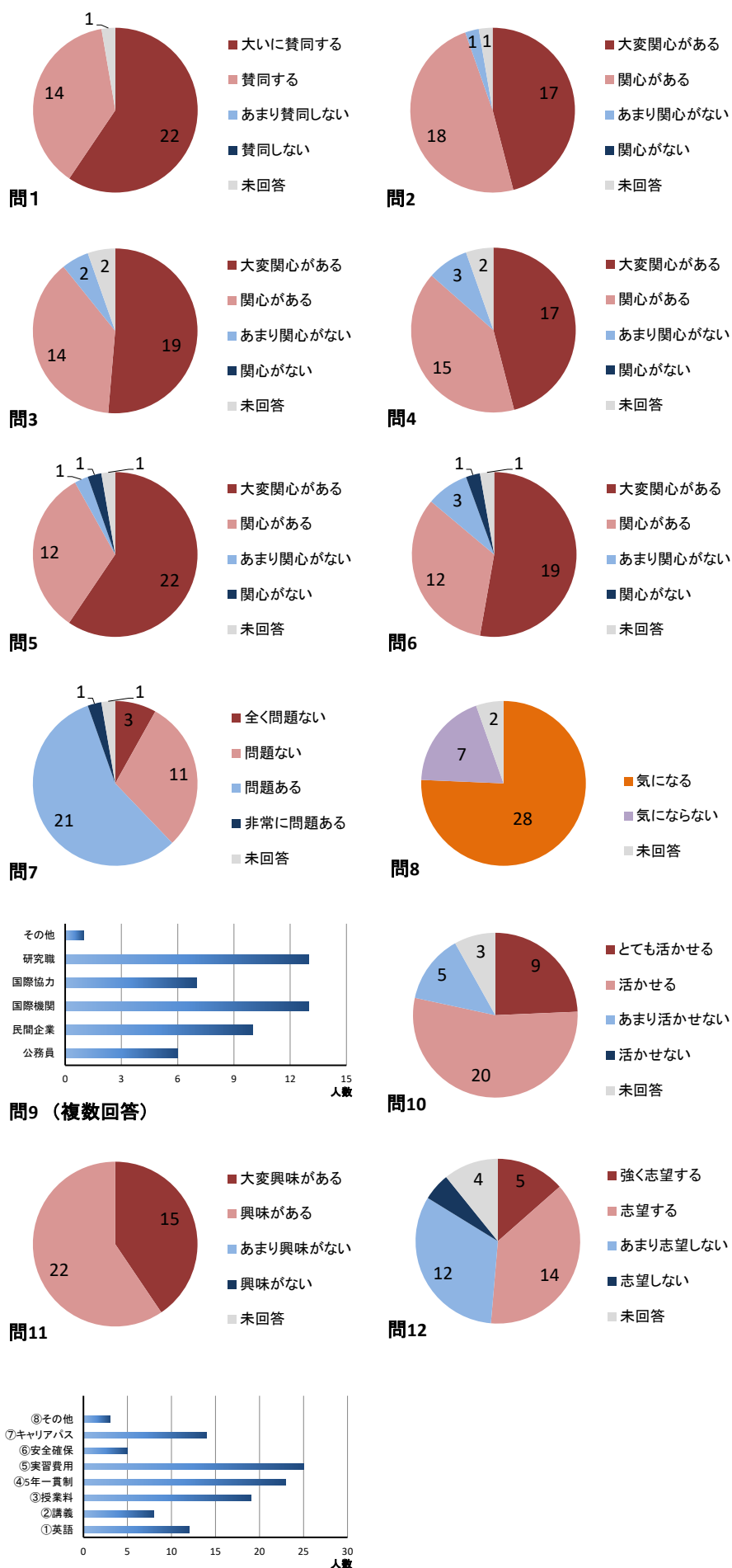
※省略

2. 今回、国際食資源学院の説明会に参加しようと思ったのはなぜですか。(複数回答)

①国際食資源学院に興味があるから	18人
②(国際食資源学院に限らず)大学院進学に興味があるから	12人
③進路に迷っているから	7人
④その他	0人
未回答	3人

※ 本アンケートは、5年一貫制博士課程を構想していた際に実施したものであり、最終的な学院の内容とは異なる部分がある。

国際食資源学院に関する学生意向アンケート 集計グラフ(H27.10実施)



※ 本アンケートは、5年一貫制博士課程を構想していた際に実施したものであり、最終的な学院の内容とは異なる部分がある。

北海道大学大学院国際食資源学院(H29 年 4 月設置予定)に関する学生意向アンケート

本日は、国際食資源学院に関する説明会に参加頂きありがとうございます。2年後の設置に向けて、
 本学に在籍中のみなさんを対象に、入学意向の調査を実施しております。担当者の説明をお聞きにな
 った上で、以下の質問にご回答頂きますようお願い致します。

1. 「食」に影響を与える世界の人口の爆発的増加、気候変動、経済的な不均衡に対して、その問題解決に
 携わる国際的なリーダーの育成を目的に設置する国際食資源学院の理念について
 ①大いに賛同する ②賛同する ③あまり賛同しない ④賛同しない
2. 国際食資源学院は従来の文系と理系の枠を超えた文理融合型の学際的な教育体制について
 ①大変関心がある ②関心がある ③あまり関心がない ④関心がない
3. 国際食資源学院では海外の研究者を本学院の教員として招致し、英語による国際水準の教育を行い、世
 界的なネットワークの中で人材育成を進めていくことについて
 ①大変関心がある ②関心がある ③あまり関心がない ④関心がない
4. 各人のメンターと個別に構築する「テラーメイドカリキュラム（研修先の選択を含む）」について
 ①大変関心がある ②関心がある ③あまり関心がない ④関心がない
5. 国際食資源学院で実施する国内外の研究機関等に長期滞在し学習する、ワンダーフォーゲル型学習
 (Problem based learning)について
 ①大変関心がある ②関心がある ③あまり関心がない ④関心がない
6. 履修者全員で実施する、事前・事後演習を含むスタートアップ実習（デンマークを予定）について
 ①大変関心がある ②関心がある ③あまり関心がない ④関心がない
- 7-a. 国際食資源学院は5年一貫の博士課程であることはあなたにとって
 ①全く問題ない ②問題ない ③問題ある ④非常に問題ある
- 7-b. 設問7-aで「問題ある」または「非常に問題ある」と回答した方にとって、どのような点が問題ですか
 (ご自由にお書き下さい)
8. 国際食資源学院は5年一貫の博士課程であるため、2年次修了後に修士号が授与されることはありません
 このことについて
 ①気になる ②気にならない
9. あなたの希望する進路は以下のどれに当てはまりますか？
 ①行政機関における公務員 ②民間企業 ③国際機関 ④国際協力 ⑤研究職
 ⑥その他または具体的にあれば（ ）
10. 国際食資源学院は博士修了者のキャリアパスとして、アカデミックな研究者のみならず行政、企業、国
 際機関で活躍できる人材の育成を目指しています。国際食資源学院での博士の学歴がご自身の希望する
 進路に活かせると思いますか？
 ①とても活かせる ②活かせる ③あまり活かせない ④活かせない
 ⑤その他（ ）

裏に続きます。

1 1. 全体的に国際食資源学院について

- ①大変興味がある ②興味がある ③あまり興味がない ④興味がない

1 2. 国際食資源学院への入学について

- ①強く志望する ②志望する ③あまり志望しない ④志望しない

1 3. 国際食資源学院に「興味はあるが入学は志望しない方」にお聞きします。入学を志望しない理由を教えてください

1 4. 進学先の候補として国際食資源学院を検討される場合、不安や心配なことはありますか

(該当するすべてに○)

- ①講義・実習が全て英語で実施されること ②専門外の授業を履修すること ③授業料の負担
④5年一貫であること ⑤実習や海外長期滞在の費用 ⑥実習先での安全確保
⑦修了後のキャリアパス
⑧その他 ()

最後に、あなたご自身についてお聞きします。

1. あなたが現在学んでいる専門分野、または今後学ぼうとする専門分野は何ですか？

2. 今回、国際食資源学院の説明会に参加しようと思ったのはなぜですか。

- ①国際食資源学院に興味があるから
②(国際食資源学院に限らず)大学院進学に興味があるから
③進路に迷っているから
④その他 ()

3. 今後、国際食資源学院に関する説明会、セミナー、進学相談会などを開催する予定です。案内や国際食資源学院に関する情報をご入用の方は、お名前と連絡先などをご記入下さい。また、知りたい内容などがありましたら、ご記入下さい

- お名前
➤ 所属 学部 学科 学年
➤ 電話番号
➤ メールアドレス
➤ 国際食資源学院について知りたい内容

ご協力、有難うございました。

北海道大学 担当者 ()

※ 本アンケートは、5年一貫制博士課程を構想していた際に実施したものであり、最終的な学院の内容とは異なる部分がある。



北海道大学

資料4

君とともに世界の未来を拓こう

大学院国際食資源学院

Welcome to
Graduate School of Global Food Resources

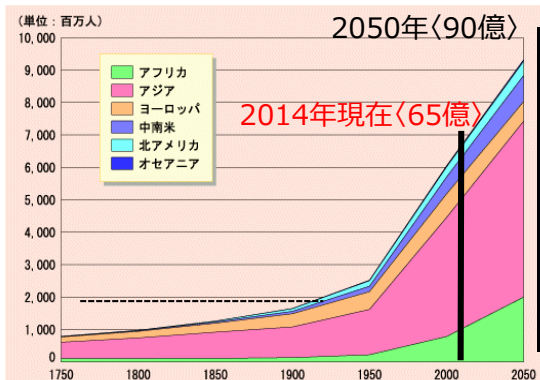
－ 平成30年度 学生募集説明会 －

21世紀、食水土資源の世界的危機に立ち向かい、
地球的問題群の解決に寄与できる国際的パイオニアリーダーを
育成するための文理融合型大学院

食・水・土資源の世界的危機

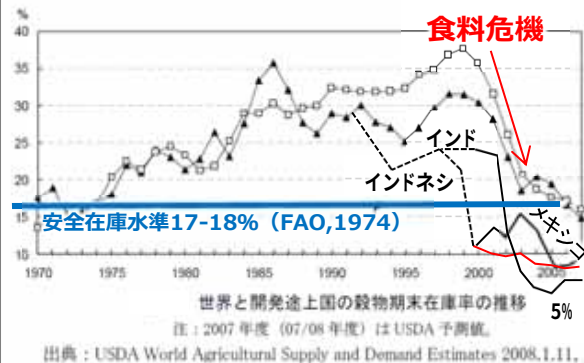
21世紀は、人口爆発に伴い食資源、水資源、土地（農地）が不足し、偏在する。
遺伝資源や食品にも汚染が懸念され、経済格差、貧困など人類の生存が世界的危機を迎える。

人口爆発



出典: 国連Revision of the World Population Estimates and Projections 1988)

食料の危機(生産/貯蔵/流通)

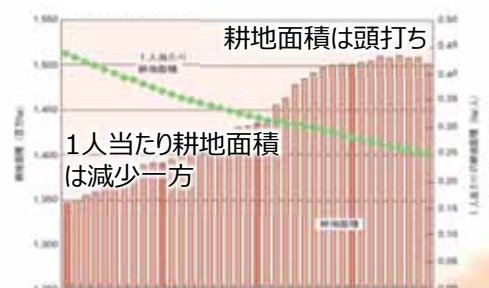


水資源の危機



資料: http://www.maff.go.jp/j/nousin/keityo/mizu_sigen/pdf/panf02

生産基盤(農地)の危機



耕地面積の限界と1人当たり耕地面積の減少

資料: 1) Statistical Databases (国連食料農業機関)
2) World Population Prospects: The 2000 Revision, 2001年 (国連経済社会局人口部)

土地の危機(沙漠化)



遺伝資源・食品の危機



国際的パイオニアリーダーの必要性

これら21世紀の食水土資源の危機を解決するには、広く世界を見渡しながらか、地域の問題に取り組むようなパイオニア精神をもったリーダーが必要であり、そのために「グローバル（グローバル・ローカル）人材」の育成が待望されている。



21世紀の地球的問題群（食水土資源の危機）を世界的視野から解決する総合技術が必要！

しかし、食料・水・土地に関わる科学技術は、農・工・水産・保健衛生・経済・地理・教育など様々な専門分野に分散

そこで、食・水・土にかかわる一貫した技術体系の確立と、その成果に基づく人材育成の場を創造しなければならない！

今こそ求められる
国際食資源学院

地球規模で拡大する食水土資源問題の解決のために、専門家として、またチームを率いるリーダーシップを発揮できるような国際人マインドを持った人材を養成する。

修士課程

世界的規模での問題解決に卓越した
ジェネラリスト的素養を具備する人材

主な進路

農林水産省、環境省、全農、国際協力機構(JICA)など
国際企業(日本水産、味の素、キューピー、雪印、三菱商事、
大成建設、サントリー、ヤンマーなど)

博士後期課程 ※平成31年4月設置予定

多面的多次元的に問題解決策を提案できる
総合力のある**スペシャリスト**的素養を具備する人材

主な進路

研究機関(農林水産省、農業・食品産業技術総合研究機構、
協和発酵研究所、サントリー研究所、ヤンマー研究所など)
国際機関(国連、FAO、UNESCO)、国際稲研究所(IRRI)、
国際協力機構(JICA) など

行動力

【ワンダーフォーゲル型学習】

- ワンダーフォーゲル実習
- 事前・事後演習

融合力

【文理融合カリキュラム】

- 総論科目
- テーマ科目

組織力

【学外実務者の指導】

- 食資源特別講義
- 食資源特別演習

修士課程

基礎的な 問題解決力

【Active Learning】

- 食資源学演習
- 食資源学研究



修士号の授与

博士後期課程

卓越した 問題解決力

【Problem Based Learning】



博士号の授与

入学を期待される学生

こんなことを考えている人にぜひ来てほしい

これまでにない独特のカリキュラム

文理融合の幅広い視点から問題をとらえ解決したい

国内外の現場での実践的な体験型教育を受けたい

問題の探索、発見、解決、提言、評価を自力でしたい

パイオニア精神を持って国際社会でも活躍したい

コミュニケーション力、チーム力、行動力を身につけたい

研究だけでなく様々な実務分野にキャリアパスしたい

●世界レベル外国人教員招致

- 食料、水、土地資源に関わる基礎科学分野と流通・政策・貿易・食文化などの各分野の海外専門家を招致
- 最先端研究や国際共同研究への参画体験（Problem Based Learning(PBL)等のプログラム）

●文理融合教育

- 異なる専門分野の教員による研究指導と、現代の世界情勢・経済、歴史、民俗や思想の理解などマルチエデュケーション
- 農・工・保健等の「理系」と、教育・経済等の「文系」が参画する文理融合教育

●ワンダーフォーゲル型学習（フィールドワーク科目）

- 現場を重視し、国内外各地での中・長期滞在学習を通して実学精神を養成

●英語による教育

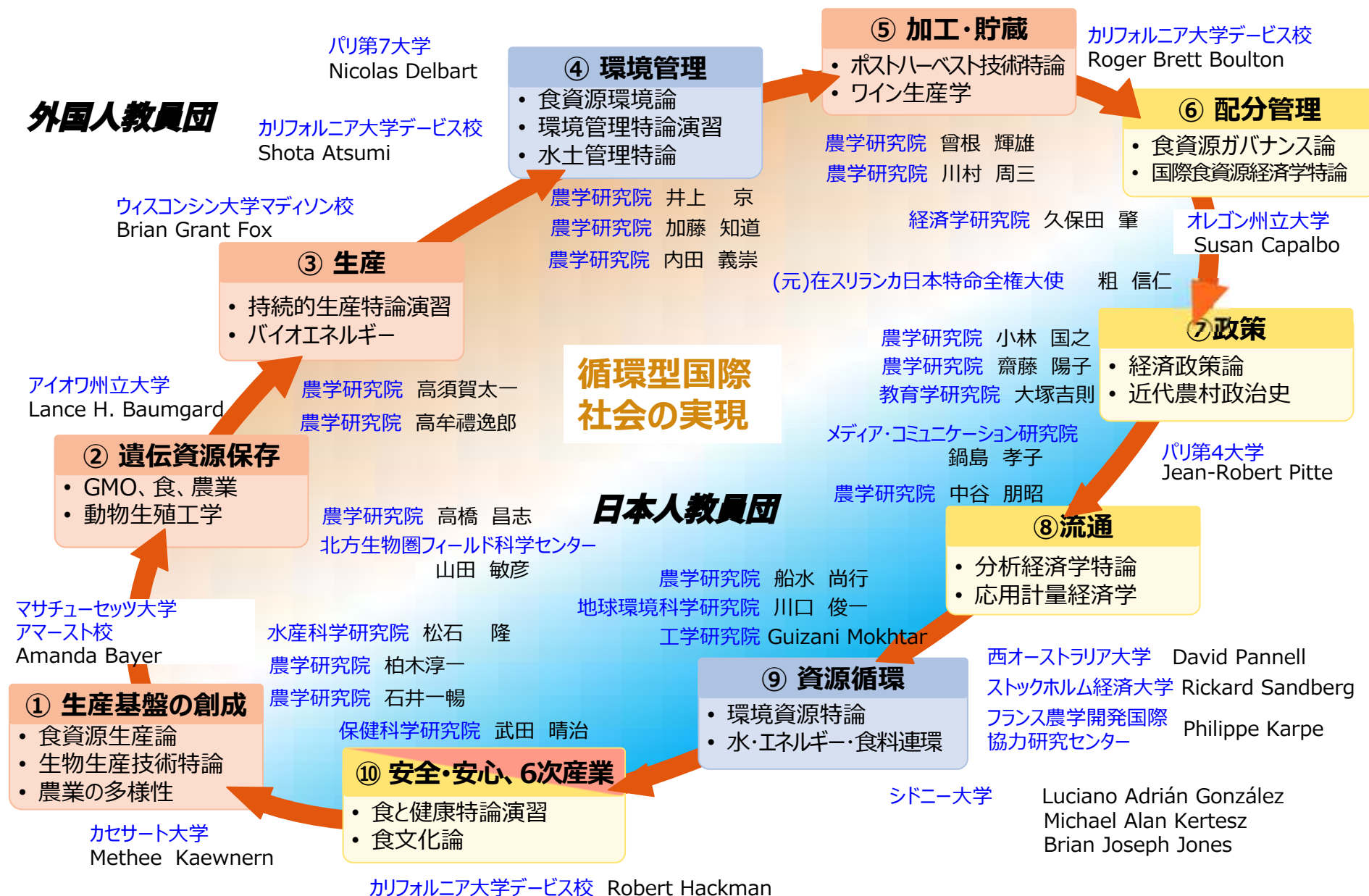
- 講義・実習・演習のすべてを英語で教育

●技術体系一貫教育

- 環境保全から食料生産まで一貫した教育により世界で通用する国際交渉力をもったパイオニア人材の育成

●社会人－学生混合教育

- 社会人の学び直しを受け入れ、多様な学生が切磋琢磨する開かれた大学院専門教育



趣旨 ▶

- 食資源に関わる現実課題と向き合い、**国内外の現場**を体験
- 世界の食資源問題を認識
- 自己の課題として取り組むための契機
- 主体的・積極的に**自身の関心とも関連づけて学習を進展**

体験の共有 ▶

- 事後の学習を重視し、教育学習効果を高めるため、実習関連科目として「**事後演習**」を配置
- **学生同士がそれぞれのワンダーフォーゲル経験についてディスカッション**することで、「体験の共有」と「チーム意識の向上」を狙う

評価 ▶

- 「実習」と「事前・事後演習」それぞれについて、以下の統一的な基準に基づき、複数教員による合議で評価
- 1. 多様で複雑な食資源の課題を理解し認識したか
- 2. 実習で学んだ事柄と、自らの関心や研究を関連づけているか
- 3. それらのことを適切に表現し伝えることができているか

安全管理 ▶

- 現地の情勢に詳しい受入機関教職員と密接な連絡
- 政情不安・伝染病等の情報把握・早期帰国勧奨等
- 定期的な連絡の義務付け

費用負担 ▶

- 入学金・授業料は、大学の規定に従い個人負担（これまでと同様）
- ワンダーフォーゲル実習Ⅰ・Ⅱは、学院負担の予定、ワンダーフォーゲル実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは一部学院負担の予定

科目の名称	主な年次	単位数		目的・内容	主な訪問先
ワンダーフォーゲル実習Ⅰ	1	必修	1	<u>先進国</u> における食資源問題の解決や改善に向けた取り組みを主体的に学習する。	デンマーク
ワンダーフォーゲル実習Ⅱ	1	必修	1	<u>途上国</u> における食資源問題の解決や改善に向けた取り組みを主体的に学習する。	ミャンマー
ワンダーフォーゲル実習Ⅲ	2	選択必修	1	<u>世界各地</u> における様々な食資源問題の解決や改善に向けた取り組みを主体的に学習する。	複数 (海外各地)
ワンダーフォーゲル実習Ⅳ	2	選択必修	1	<u>日本国内</u> の農業団体・自治体等において、課題を認識し、解決や改善に向けた取り組みを主体的に学習する。	複数 (国内各地)
ワンダーフォーゲル実習Ⅴ	2	選択必修	[1]	専門性を深化させ、海外・国内の行政・研究機関・企業等の学外現場において修士論文研究・特定課題研究の研究を行う。	複数 (海外国内各地)

※単位数の数字に [] を付している授業科目は、複数の講義題目により行われ、それぞれ一の授業科目として履修することができる。

デンマーク (1週間程度を予定)



先進国型の食資源問題

- 先進国が直面する食資源問題は、環境と調和した持続可能な農業生産の実現である。
- そのためには、農業者、政府・地方自治体、研究者が三位一体となって問題解決に向けて取り組むことが求められる。
 - ◆ 研究者：問題の同定と技術的な解決策の提示
 - ◆ 政府・地方自治体：試験研究への支援および政策を通じた技術普及のバックアップ
 - ◆ 農業者：環境と調和した農業経営の実施

実習の目的

水環境と酪農・畜産業との調和に着目して、酪農王国デンマークの事例から、持続可能な農業生産がどのように達成されてきたのか、農業者・地方自治体・研究者の取り組みについて当事者から直接学び、先進国型の食資源問題解決に向けた方策を提案できる力を涵養することを目的とする。

実習の特徴

- 酪農王国・デンマーク西部のリンケビン・スキャン市に滞在
- 農業者、地方自治体担当者による講義および関連施設の視察
- オーフス大学フォールンキャンパスにおける講義聴講
- 同大学サマーユニバーシティとの共同開講のため、世界中からの留学生とともに学習

ミャンマー
（2週間程度を予定）

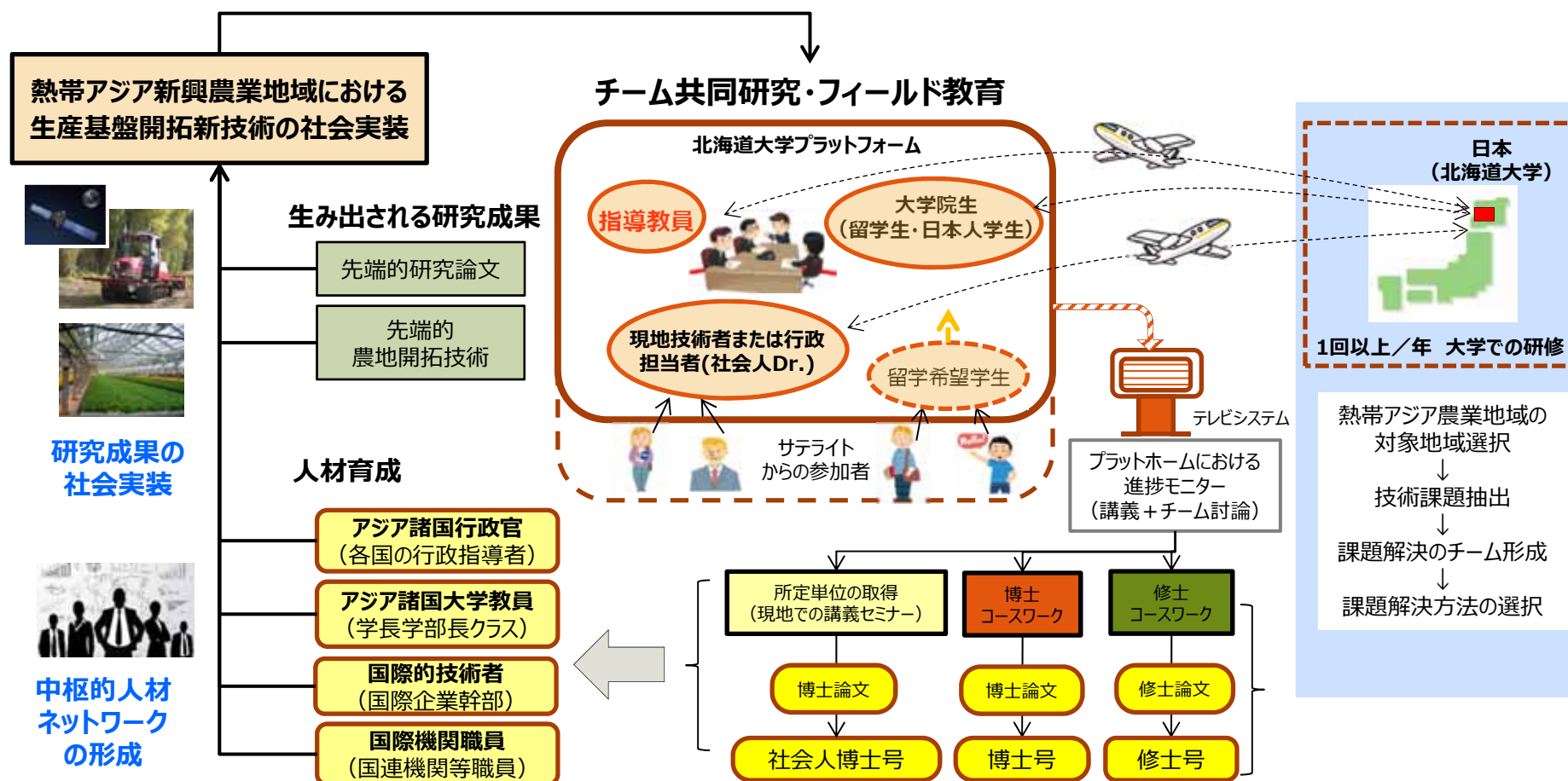


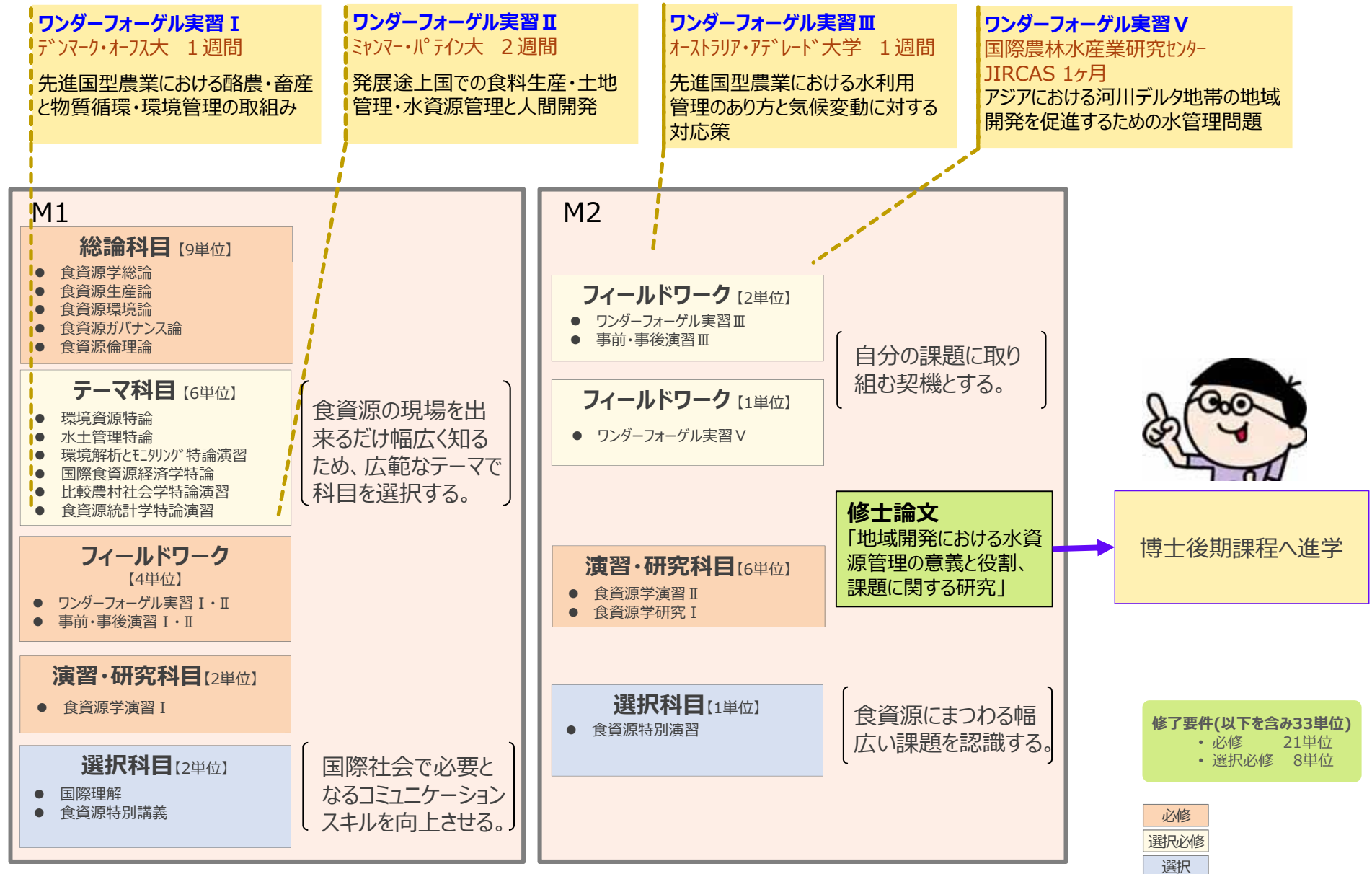
プログラム例

Day	Events
1	Chitose-Narita-Yangon
2	JICA Yangon Office*: Lectures on current situation of Myanmar (Agriculture, Fishery, Economics, Environment, and international cooperation from Japan) - Patheingyi
3	Field study1 (Chaungtha: Marine science training center, Mangrove Park)
4	Field study2 (Patheingyi: Suburban agriculture, Rice mills, Food factory, etc.)
5-6	Field study3 (Myaungmya: Cyclone shelter, Rice farm, aquaculture, etc. -Homestay?)-Patheingyi
7	Student-student collaborative study in Patheingyi University; Fifteen students will be divided into 3 groups and meeting with 1 to 3 Patheingyi students/group. Each group will discuss and finally fix its study focus.
8-10	Student-student collaborative study in Patheingyi University; group study. Each group may visit the field again and research.
11	Student-student collaborative study in Patheingyi University; presentation by students with attendance of Patheingyi university teachers.
12	Patheingyi-Yangon, free time
13	JICA Yangon Office* (Presentaion by students; what they learned and thought, future prospective, etc.) Patheingyi-Narita
14	Narita-Chitose

「知と技」ネットワークアジア（先端研究コンソーシアム）

学生の主体的な学びを促し、また研究成果の社会実装をめざして、ミャンマー連邦共和国を核とするインドシナ半島を中心に教育研究コンソーシアムを構築し、躍進するアジア農業を牽引する中枢的リーダーを生み出して、世界農業を牽引する人材ネットワークを形成する。





修士課程

博士後期課程

設置年度： H29.4.1

H31.4.1（予定）

入学定員： 15 人

6 人

授与する学位： 修士（食資源学）

博士（食資源学）

修了要件：

- 2年以上の在学
- 必修科目 21単位以上、選択必修科目 8単位以上（テーマ科目：6単位、フィールドワーク科目2単位）を含め33単位以上の修得
- 修士論文又は特定課題の研究成果の審査及び試験に合格

- 3年以上の在学
- 必修科目を含め15単位以上の修得
- 博士論文の審査及び試験に合格

修士論文による修了

特徴

- 食資源学に関わる特定の課題に関して、調査、実験、試験研究を行い、その結果と成果を修士論文としてまとめる。

メリット

- 研究のスペシャリストを目指す基礎を固めることができる。
- 食資源学に関する幅広い知識と経験を持つと同時に、専門的な学術研究を行うための基礎力を身につけることができる。
- 国際学会での発表など、プレゼンテーションのスキルをブラッシュアップできる。

特定課題研究による修了

特徴

- 食資源学に関わる特定の課題に関して、ワンダーフォーゲル実習や演習を踏まえてフィールドワークやケーススタディーを行い、課題の分析と評価、解決法の探求、解決法の立案と社会への提言に取り組み、その成果を研究報告としてまとめる。

メリット

- 実務のスペシャリストを目指す基礎を固めることができる。
- 食資源学に関する課題の解決のために必要な能力を磨き、実社会で求められるジェネラリストになるための基礎力を身につけることができる。
- ワンダーフォーゲル実習に時間を注ぎ込み、その取組みを深めることができる。

平成30年度 国際食資源学院 修士課程 入学試験（一般選抜）



1. 募集人数：15名

2. 試験科目

- ・小論文試験…事前に募集要項で提示するテーマに関する課題を出題する。（日本語又は英語）
 - ・口頭試問…学修・研究計画、修了後の進路に関するプレゼンテーションと試問を課す。（英語）
- ※英語能力の審査のため、願書提出時に「TOEFL又はTOEICの公式認定証」の提出が必要。

3. 入試日程

前期日程	
6月初旬	募集要項公表
7月18日～ 7月24日	願書提出締切
8月28日	1日目：小論文試験
8月29日	2日目：口頭試問
9月7日	合格発表

後期試験	
11月初旬	募集要項公表
12月18日～ 12月22日	願書提出締切
2月3日	小論文試験・口頭試問
2月16日	合格発表

平成 29 年度北海道大学大学院国際食資源学院
 修士課程(博士前期課程) 前期入学試験問題
 科目名:小論文

以下の課題について、日本語の場合 1,600 字程度、英語の場合 800 ワード程度(概ね 2 ページ)で、別紙に解答しなさい。

Answer the following questions in 1,600 words in Japanese or 800 words in English (approximately 2 pages) in the answer sheets.

課題

以下の図表は、アフリカとアジアの人口規模と増加率(Table 1)、一人当たり米供給量の推移(Figure 1)、米の輸出入量推移(Figure 2)を示したものである。それぞれの資料から、

- (1) アフリカとアジアの米需給に関する現状を分析し、課題を述べなさい。
 - (2) (1)の課題解決のための方策について具体的なテーマを設定し、あなたの考えを述べなさい。
- 世界開発指標について示した Table2 を適宜参照してよい。

Question:

Table 1 presents the population and its growth rate in Africa and Asia. Figures 1 and 2 show the historical trends of per capita rice supply, and rice export and import in each region. Given those information,

- (1) Discuss and clarify the current issues and challenges in rice supply and demand in Africa and Asia.
- (2) Provide policy or technological options that are effective for the issues you discussed in (1).

You can refer the World Development Indicators, in Table 2 if necessary.

Table 1 . Population and its Growth Rate

Population (hundred million)			Annual Growth Rate (%)		
Africa		Asia	Africa		Asia
1965	3.2	18.7	1961-1965	2.49	2.17
1970	3.7	21.2	1966-1970	2.57	2.49
1975	4.2	23.8	1971-1975	2.64	2.32
1980	4.8	26.3	1976-1980	2.79	2.00
1985	5.5	29.0	1981-1985	2.85	1.99
1990	6.3	32.0	1986-1990	2.80	2.02
1995	7.2	34.7	1991-1995	2.67	1.64
2000	8.1	37.1	1996-2000	2.47	1.34
2005	9.2	39.4	2001-2005	2.48	1.21
2010	10.4	41.7	2006-2010	2.56	1.12

Source) FAOSTAT

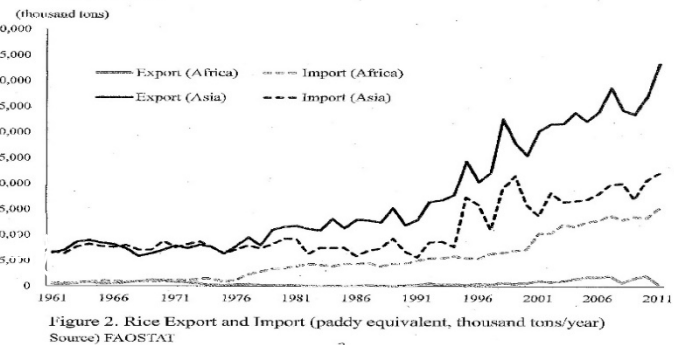
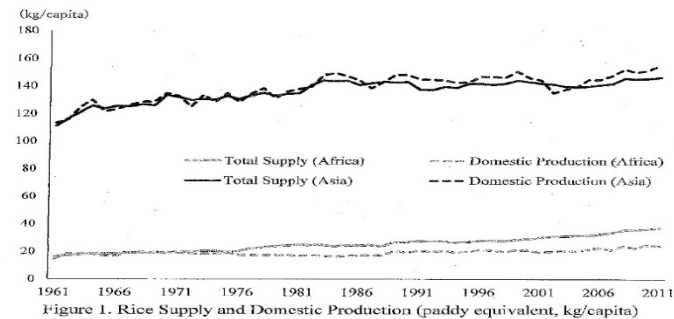


Table 2. World Development Indicators

Indicator	unit	East Asia & Pacific	Sub-Saharan Africa
Population density	people/km ²	16,270	24,263
Total fertility rate	births per woman	1.8	5.0
Gross National Income (GNI)	per capita (\$)	9,602	1,628
GDP	growth rate (%)	7.1	4.1
	per capita growth (%)	6.4	1.4
Share of population living on less than \$1.25	%	4.1	40.9
Under 5 mortality rate	per 1,000 births	20	90
Primary (school) completion rate	% of relevant age group	105.0	70.0
Youth literacy rate	% of population age 15-24	99.0	70.0
Access to improved water source	% of total population	91.0	64.0
Access to sanitation facilities	% of total population	67.0	30.0
Average annual deforestation	forest area change in % (2000-2015)	-0.17	0.5
Access to electricity	% of total pop.	96.10	35.3
Urban population	growth rate (%)	2.8	4.1
Cereal yield	kg/hectare	4,947	1,476
Agricultural productivity	value added per worker (\$)	1,738	1,207

Source) World Bank, World Development Indicator (2015)

平成30年度 国際食資源学院 修士課程 入学試験（外国人特別選抜）

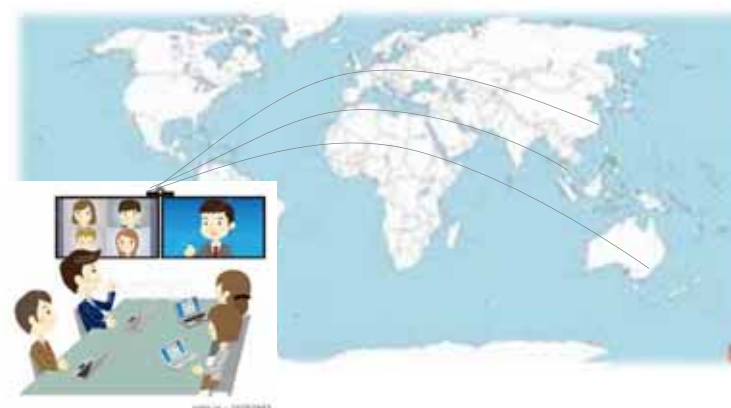
1. 対象者：日本国以外の国籍を持つ者

2. 募集人数：若干名

3. 試験方法（予定）

予備審査後、スカイプ等を用いた面談とメールインタビュー

※渡日せずに受験が可能



4. 入試日程

参考：平成29年度 外国人特別選抜

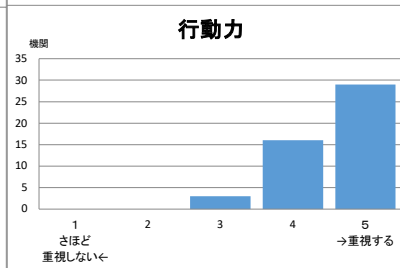
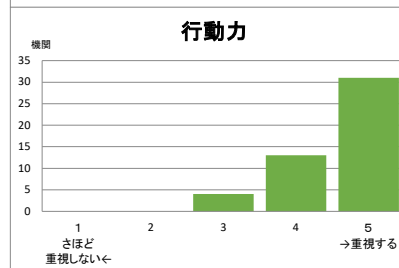
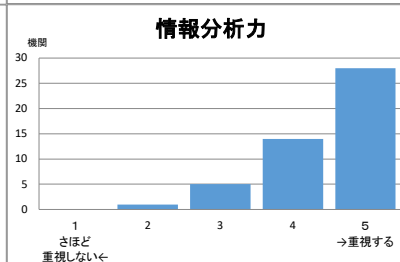
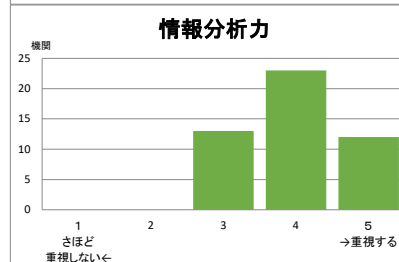
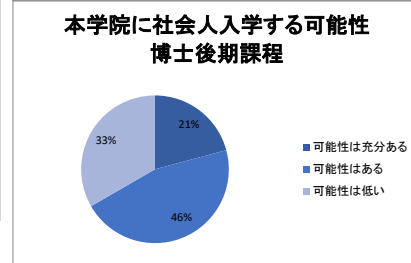
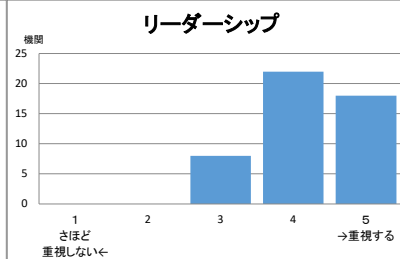
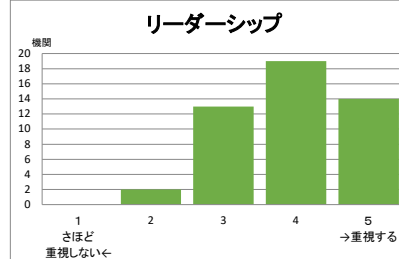
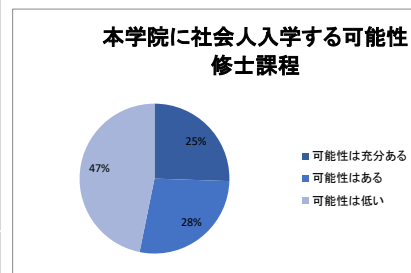
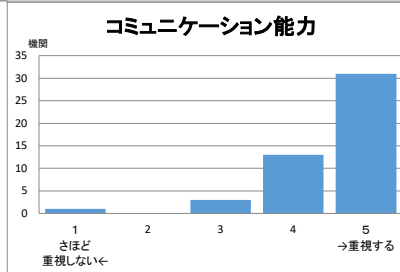
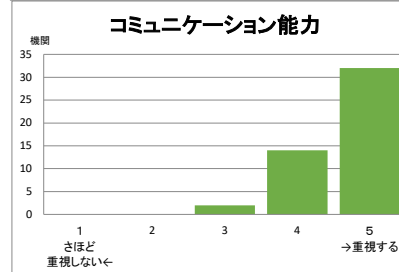
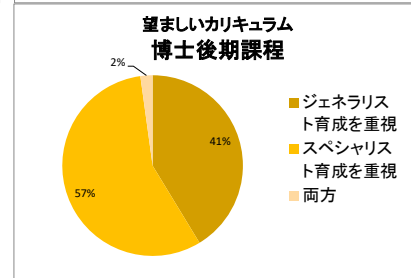
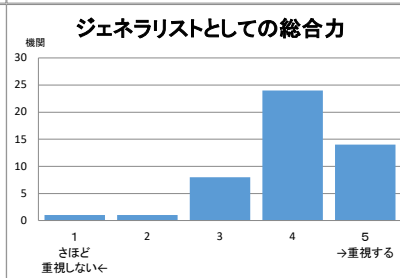
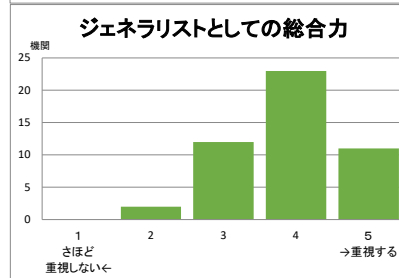
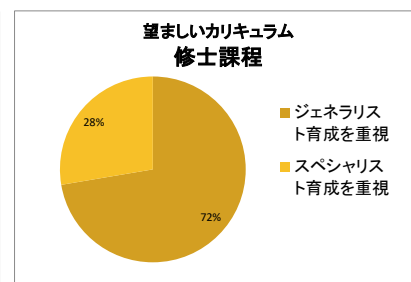
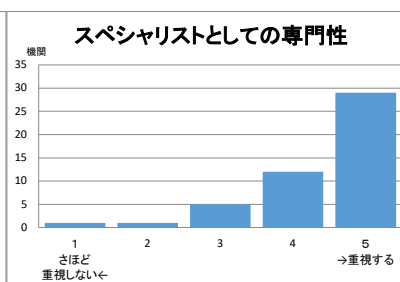
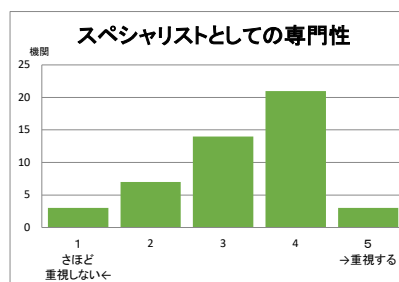
9月初旬	募集要項公表
9月23日～9月30日	予備審査書類提出締切
10月初旬	予備審査結果発表
10月11日～10月18日	出願（検定料の納入）
10月20日～11月27日	試験
12月9日	合格発表



※決定次第、ホームページにて公表

修士課程

博士後期課程



平成 27 年 12 月 24 日

北海道大学大学院「国際食資源学院」修了生に関するアンケート

本学では、新しい大学院「国際食資源学院」の 2017 年 4 月設置を目指し準備を進めております。

新大学院の詳細は添付の PDF ファイルをご覧くださいたく存じますが、新学院の特徴と養成する人材像を下記のように考えております。さらに新大学院の設置準備を進めるにあたり、大学院修了者に対する社会的ニーズを把握するため、アンケートを実施することといたしました。

つきましては、年末・年始のご多忙の折誠に恐縮ではございますが、本学院の修了者に期待する人材像につきまして、以下のアンケートにご協力を賜りたく存じます。

メールへの直接記入、もしくはファイル添付で平成 28 年 1 月 7 日（木）までにご回答をいただけるとありがたく存じます。個人の見解として回答いただいても結構です。

何とぞ宜しくお願い申し上げます。

担 当： 北海道大学大学院農学研究院
副研究科長 井上 京 庶務担当係長 菊池洋美
メール： shomu@agr.hokudai.ac.jp 電 話： 011-706-2420

「国際食資源学院」の特徴

- 地球規模で拡大する食資源問題の解決のため、世界を俯瞰的に見る国際的リーダーを育成
- 国内外各地で 短期・長期滞在学習 を行う「ワンダーフォーゲル型学習」の実施
- ワンダーフォーゲル型実習をコアとした 文理融合型の学際的教育

※「ワンダーフォーゲル」：ドイツで〈渡り鳥〉の意。ドイツ中世の学生たちが優れた先生を求めて、あちこちの大学を渡り歩いたので、この学生たちを〈渡り鳥〉と呼んだのが語源。

「国際食資源学院」で養成する人材像

- 修士課程では、行動力・融合力・組織力を身につけたジェネラリストを養成
- 博士後期課程では、ジェネラリストとしての資質を持ち、さらに問題解決の技術力を備えたスペシャリストを養成

1. 修士課程 修了者を採用する場合、以下の各資質について重視する度合いに○を付して下さい。

	さほど重視しない ←					→ 重視する
スペシャリストとしての専門性	1	2	3	4	5	
ジェネラリストとしての総合力	1	2	3	4	5	
コミュニケーション能力	1	2	3	4	5	
リーダーシップ	1	2	3	4	5	
情報分析力	1	2	3	4	5	
行動力	1	2	3	4	5	

2. 修士課程 におけるカリキュラムとして、より望ましいものに○を付してください。

ア スペシャリスト育成よりも「ジェネラリスト育成を重視」したカリキュラム

イ ジェネラリスト育成よりも「スペシャリスト育成を重視」したカリキュラム

3. **博士後期課程** 修了者を採用する場合、以下の各資質について重視する度合いに○を付して下さい。

	さほど重視しない ←			→ 重視する	
スペシャリストとしての専門性	1	2	3	4	5
ジェネラリストとしての総合力	1	2	3	4	5
コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
リーダーシップ	1	2	3	4	5
情報分析力	1	2	3	4	5
行動力	1	2	3	4	5

4. **博士後期課程** におけるカリキュラムとして、より望ましいものに○を付してください。

ア スペシャリスト育成よりも「ジェネラリスト育成を重視」したカリキュラム

イ ジェネラリスト育成よりも「スペシャリスト育成を重視」したカリキュラム

5. 貴社等の社員が本学院に社会人入学する可能性について、最も近いものに○を付してください。

修士課程 : ① 可能性は充分ある ② 可能性はある ③ 可能性は低い

博士後期課程 : ① 可能性は充分ある ② 可能性はある ③ 可能性は低い

6. 本学院の修了者に特に期待する資質、望まれる人材像がございましたら、自由にご記入ください。

修士課程

博士後期課程

7. ご回答いただいた方のご所属をご記入下さい。

なお、ご回答いただきました内容は、上記目的のみで利用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

国際食資源学院設置に関する企業アンケート 集計結果(H26年度末実施)

1	重視する専門分野	乳製品／作物育種／界面科学、高分子化学、機械工学、再生医療／食品科学／農業生物遺伝資源 遺伝子組み換え、ゲノミクス／寒地における農業食品産業を支える先導的農業技術の開発／農業・農村開発／多岐に渡るが、食資源は重点分野の一つ／植物育種学、ゲノム遺伝学、分子生物学／食品製造、販売、物流、輸出入等／作物生産、農業経済／健康、美容／マテリア(保健分野)／野菜・花卉の品種改良(育種)、種苗の生産性・主旨品質の向上／育種、遺伝、栽培、種子生産等／農業、水産、林業、工業、食品産業、環境、地質、建築分野／農業、農業機械／市場開拓、マーケティング、複合ソリューション系／農業の機械化・自動化				
---	----------	---	--	--	--	--

2	大学院の人材育成に望むこと	専門性よりも一般性を重視したカリキュラム	一般性よりも専門性を重視したカリキュラム	両方を重視	その他
		0	3	15	1

3	過去5年間に採用した博士課程修了者数	0名	1～5名	6～10名	11名～
		6	9	1	3

4	今後5年間の博士課程修了者の採用予定	0名	1～5名	6～10名	11名～	未定
		7	3	1	0	8

5	採用する博士課程修了者に海外での研究・実習経験を期待するか	期待する	期待しない	無回答
		14	3	2

6	博士課程修了者に望む、国際性を示す能力の優先順位	語学能力	異文化への適応能力	人材形成能力	その他
		3位	1位	2位	4位

7	博士課程修了者に望む人材像	多いに期待する	まあまあ期待する	期待する	余り期待しない	全く期待しない	その他
	:専門性	11	2	1	1	2	2
	:一般性	4	5	4	1	1	4
	:国際性	6	3	4	1	2	3
	:協調性	4	4	6	2	0	3

8	社会人入学制度による博士の学位の取得可否・希望者の有無	可能／あり	不可能／なし	無回答
	:取得可否	16	2	1
	:希望者有無	9	2	8

9	新学院においてどのような人材育成が期待できるか(期待できる順番)	研究型	行政型	産業型	国際協力型	その他
		4位	3位	2位	1位	

10	教育研究の一貫としての学生受け入れ可否	可能	不可能	検討する	無回答
		10	4	3	2

11	博士課程を修了した学生の選考方法	(略)
----	------------------	-----

※ 本アンケートは、5年一貫制博士課程を構想していた際に実施したものであり、最終的な学院の内容とは異なる部分がある。

北海道大学大学院 国際食資源学院（仮称）の設置に関するアンケート

会社又は機関名（ ） 部署（ ） 役職（ ） ご芳名（ ）

1 貴社（貴機関）が重視する専門分野は何ですか？

2 貴社（貴機関）が大学院の人材育成に望むことは、次のどれに当てはまりますか？

ア：専門性よりも一般性*を重視したカリキュラム

イ：一般性よりも専門性を重視したカリキュラム

ウ：両方を重視する

エ：その他（ ）

*一般性：広く異分野の知識を持ちそれを使って問題解決する能力。

3 過去5年間に採用した博士課程修了者は何名ですか？

名

4 今後5年間で博士課程修了者を採用する予定はありますか？

名

5 貴社（貴機関）が採用する博士課程修了者に海外での研究・実習経験を期待しますか？

6 貴社（貴機関）が博士課程修了者に望む国際性を示す以下の能力の優先順位は？

ア：語学能力 イ：異文化への適応能力 ウ：人脈形成能力 エ：その他 記

7 貴社（貴機関）が博士課程修了者に期待する資質は？

	多いに期待する	まあまあ期待する	期待する	余り期待しない	全く期待しない
ア：専門性	1	2	3	4	5
イ：一般性	1	2	3	4	5
ウ：国際性	1	2	3	4	5
エ：協調性	1	2	3	4	5
オ：その他	1	2	3	4	5

8 貴社（貴機関）の職員は、社会人入学制度を利用して、博士の学位を取得することができますか？
また、希望者はいますか？

9 北大に新設される国際食資源学院（仮称）において貴社（貴機関）はどのような人材の育成が期待できると思いますか？ また、期待できる順番を示して下さい。

ア：研究型 イ：行政型 ウ：産業型 エ：国際協力型 オ：その他

10 貴社（貴機関）は教育研究の一貫として国際食資源学院の学生を受け入れることができますか？
どのような形態が可能ですか？

11 博士課程を修了した学生はどのような選考方法で貴社（貴機関）に採用されますか？

アンケートにご協力下さり有難うございました。

北海道大学 担当者（ ）

※ 本アンケートは、5年一貫制博士課程を構想していた際に実施したものであり、最終的な学院の内容とは異なる部分がある。